

青年期の自己開放性に関する一検討

——対象の類型の観点から——

久 世 敏 雄

I 問 題

自己を他者に理解されたい、自己の内面を他者に打ち明けたいという要求や、それとは反対に、自己一人だけの殻に閉じこもりたいという要求は、人間生活において、しばしばみられる現象である。この自己開放ないし閉鎖の要求について、青年期は、一般的にいて閉鎖的な傾向が強いという指摘がなされている(依田, 1963)。

しかし、この心理的現象を実証的に検討しようとする試みは、殆どみられない。この検討は、わが国では、加藤の報告のみである。そこでも、青年(中学生)は、一般に、自己閉鎖的であるといわれている(加藤, 1965)。

そこで、困難な事態に遭遇した際、なお、青年は、自己閉鎖的であるかについて、われわれは、若干の検討をした。この際、青年が自己について、言語的に打ち明ける情報ともいべき自己開放性(self-disclosure)の概念を使用した。

困った場面における中学生および大学生の自己開放性に関して、次の諸点を明らかにした。

- 1) 生徒・学生は、一般に他者に対して自己開放的でない。とくに、男子は、女子に比べ、その傾向が強い。
 - 2) 父、母、兄弟姉妹、親友、先生の対象別にみると、中学生は、母親と親友に最も自己開放的であるが、大学生は、親友に最も自己開放的である。一方、最も自己開放的でない対象は、先生である。
 - 3) 対象別、領域別にみると、父、母に「進学・就職」の領域で、親友に「勉強・成績」「学校生活」の領域で自己開放的な傾向がみられる。
- また、自己開放性と愛情および信頼感との関連について検討し、次の諸点を明らかにした。
- 4) 父母から暖かい愛情のある養育を受けていると認知する青年は、そうでないと認知する青年に比べ、父母に対して、自己開放の程度が高い。
 - 5) 父母の問題解決の能力を信頼できると認知する青年は、そうでないと認知する青年に比べ、父母に対して、自己開放の程度が高い。

このように、われわれは、青年期の困った場面における自己開放性に関して、かなりの知見を得ることができた。しかし、そこで明らかにされた事実は、青年一般を

論ずるには貴重な知見であるが、青年の個人を理解するためには、必ずしも十分な知見であるとはいえない。青年の自己開放性の平均が求められ、対象としての父、母、親友への開放性の程度は明らかにされるのであるが、平均的青年に適用できる事実が、個々の青年にどの程度あてはまるのか疑問である。このことは、実態調査の研究では、統計的手法として平均・標準偏差や相関係数などを求めることの多いこととも関連しよう。

Cozby, P. C. (1973) は、自己開放性に関する研究を展望しているが、その展望によれば、自己開放性に関する研究はかなりの量に達している。しかし、Jourard, S. M. & Lasakow, P. (1958) の研究を初めとして、Dimond, R. E. & Munz, D. C. (1967), Dimond, R. E. & Helkamp, D. T. (1969), Jourard, S. M. (1961), Melikian, L. H. (1962), Plog, S. C. (1965), Rickers-Ovsiankina, M. A. (1956), Rickers-Ovsiankina, M. A. & Kusmin, A. A. (1958), Rivenbark, W. H. (1971), West, L. W. & Zingle, H. W. (1969) の諸研究においても、データ処理の方法は、平均、標準偏差、相関係数および分散分析の手法を主として用いている。

データ処理の手法は、研究の目的によって当然異なるが、青年心理の研究が、青年の行動を予測することを目的とするならば、平均的青年を論ずる結論が、青年の個人にも適用できることが必要である。このためには、青年一般を論ずるためのデータ処理の必要なことはいうまでもないが、青年の個人を分析する手法の検討も必要である。

このための手法は、青年一般を論ずることのできる結論を、個々の青年に適用して、そこで適用可能な結論を一般法則とすることであろう。

われわれは、個への理解を深めるための1ステップとして、すでに得られたデータについて、観点をかえて再検討する。すなわち、自己開放性の対象に関する個別化、類型化の観点から、新たな情報を得ることを目的とする。

II 方法

自己開放性に関して得られた資料は、すでに報告したように、中学生および大学生が自己を開放する対象 (object) および領域 (aspect) に関するものと、父、母についての愛情および対象についての信頼感に関する情報である。また、開放性の強度 (intensity) は、対象と領域にかかわる dynamics として把握すれば、自己開放性は、相互に関連する三つの要因により記述することができる。

対象は、父、母、兄弟姉妹、親友および先生である。また、領域は、「家庭生活」「身体・性格」「勉強・成績」「友人関係 (異性関係を含む)」「学校生活」「進学・就職」「人生・社会観」の7領域である。

各対象に対する自己開放性得点は、7領域それぞれ3項目合計21項目について、「全然打ち明けない」「どんなことで困っているかということだけを打ち明ける」「すべて打ち明ける。したがって、その人はあなたがどんなことで困っているかをよく知っている」の3段階の何れにあてはまるかを評定させて得点化した。

また、対象の意味づけに関連して、父、母の愛情は、Heilbrun, A. B. の質問項目を参照して8項目作成し、3段階に評定させている。さらに各対象は、それぞれの対象の価値を明らかにするため、開放性を測定するための21項目について、最も重要な意見・判断として頼る順位を評定されている。

整理の方針

整理は、各対象別の自己開放性得点を操作的に設けた基準に従い、誰が自己開放の対象であるかによって類型化する。自己開放の対象が、単一の場合、複数以上の場合および対象のいない無対象の場合が考えられる。単一対象群および複数対象群は、これらを、家族群一父、母および父・母型等一、親友型、中間群一父・親友、母・親友および父・母・親友型等一に分類することが可能である。さらに、対象のいない閉鎖型を含めて、既述した愛情および問題解決についての信頼感の調査と照合しながら、各類型の対象の意味および機能を検討する。

被調査者は、すでに報告した中学生^{*}および大学生である。

なお、対象の類型化の得点上の基準は、次のとおりである。この内訳は、5対象のうち何れかの対象への得点が21以上(上位群とよぶ)と21以下(下位群とよぶ)に分けて提示する。

* この整理の対象となった中学女子は161名である。

対象の類型化の得点上の基準

類 型	基 準
単一対象群	$0_1 - 0_2 = d_1 \geq 8$
20型	$d_1 \leq 3$ および $0_2 - 0_3 = d_2 \geq 8$
複数対象群	30型 $d_1 \leq 3, d_2 \leq 3$ および $0_3 - 0_4 = d_3 \geq 8$
40型	$d_1 \leq 3, d_2 \leq 3, d_3 \leq 3$ および $0_4 - 0_5 = d_4 \geq 8$
20型	$d_1 < 8$ および $0_2 - 0_3 = d_2 \geq 8$
準複数対象群	30型 $d_1 < 8, d_2 < 8$ および $0_3 - 0_4 = d_3 \geq 8$
40型	$d_1 < 8, d_2 < 8, d_3 < 8$ および $0_4 - 0_5 = d_4 \geq 8$
無対象型	$0 \leq 0_1, 0_2, 0_3, 0_4$ および $0_5 \leq 10$
準無対象型	$0 \leq 0_1, 0_2, 0_3, 0_4$ および $0_5 \leq 20$
分類不能型	上記の基準にすべてはずれるもの

(注) 0_1 は第1位の対象の得点, 0_2 は第2位の対象の得点を示す。以下同様である。

III 結果

1) 対象の類型の分布

操作的に定めた前述の自己開放性得点の基準によって対象を類型化すると表1に示したように単一対象群、複数対象群(準複数対象群を含む)、無対象群(準無対象型を含む)および分類不能型の4群になる。

(1) 単一対象群

この型においては、単一の対象が、個人の自己開放の中心の対象と考えられる。この単一対象群に属する者は、最高点をとった単一の対象が誰であるかによって、表1に示すように、父型、母型、兄弟姉妹型および親友型の4つの型に分かれる。この4つの型は、中学、大学の男女別によって異なることがわかり、大学において親友型が圧倒的に多い。

(2) 複数対象群

この型においては、2人以上の対象が自己開放の対象と考えられる。この型には、最初に設けた基準によって、2人以上の対象への開放性得点が他の対象とかけはなれて高い複数対象群と、その基準では対象を定めがたく、ゆるめた基準による準複数対象群がある。

この複数対象群に属する型は、2人が他の対象に比べて高い型一父・母型、母・親友型、兄弟姉妹・親友型など一、3人の対象が高い型一父・母・親友型、母・兄弟姉妹・親友型など一、および4人の対象が高い型一父・母・兄弟姉妹・親友型など一がある。複数対象群の各型は、表1に示すとおりである。

表1 対象の種類の分布

各種別	性学校別	単一対象群		複数対象群								準複数対象群				無対象群		分類不能型									
		型	型	父	母	兄	親	父	母	弟	友	母	母	弟	友	父	母		弟	友	母	母	弟	友	父	母	弟
上位群	男	中学	131210	9		2	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	3	4	1	1	1	1	1	2			13
	女	中学	161022	2	3	9	2	5	4	1	1			1	6	1	1	5	2	10	15	2					15
下位群	男	中学	1138	1	1	2	1	1	4	1			2			1							1	20	33		
	女	中学	117		1	2	2	1	2	2			1										2	26	31		
	男	中学	12		1	3	1	1		1	1	1												5	11		
	女	中学	14		1	1	2		1	1				1										2	13		

※ 兄弟型は兄弟姉妹型を略している。以下表2から表10まで同様である。

(3) 無対象群

この型では、5人の対象は、どの対象も、自己開放の対象とは考えられていない。この型では、最初に設けた基準—すべての対象の得点が10または10以下—によって、対象のいない無対象型と、ゆるめた基準—すべての対象の得点が20または20以下—による準無対象型がある。

この無対象群では、すべての対象が自己開放のあらゆる領域において低い得点を示すのが特徴である。

この型は、中学および大学の男子に多いのが目立っている。

(4) 分類不能型

以上のいずれの型にも分類できない者がいる。この型に属する者は、表1にみられるように、僅かである。

表1の対象の種類は、単一対象群および複数対象群(準複数対象群を含む)の上位群に関して、これらを家族群、親友型および中間群—家族・親友型—として、また、無対象型を閉鎖型として整理しなおすと、表2のとおりである。

表2 家族群・中間群・親友型および閉鎖型の分布

各類型	性別 学校別	男		女	
		中学	大学	中学	大学
家族群	父 型	1	1		
	母 型	3		16	12
	兄 弟 型	12	4	10	8
	父・母 型	9 (2)	1	2 (1)	1
	父・兄弟 型				1
中間群	母・兄弟 型			3	1
	父・母・兄弟 型	2 (3)		(1)	
親友型	父・親友 型	(1)			
	母・親友 型	(1)	1	9 (6)	9 (5)
	兄弟・親友 型	2	9 (5)	2 (1)	13 (6)
	父・母・親友 型	1 (4)	3 (2)	5 (5)	5 (7)
	父・兄弟・親友 型			(2)	
閉鎖型	母・兄弟・親友 型	1	(2)	4 (0)	5 (8)
	父母兄弟親友 型	1 (1)	(1)	1 (1)	2 (2)
親友型		10	52	22	50
閉鎖型		20	26	5	2

* ()内数字は準複数対象群の人数であり外数である。

青年期の自己開放性に関する一検討

表2から、中学生では、家族群が男女ともに親友型よりも多い傾向があり、大学生では、親友型が男女ともに家族群に比べ多いことがわかる。また、大学男子は家族群の少ないのが目立っている。中間群は、女子が男子に比べ多い傾向がある。閉鎖型は、中学生、大学生ともに、男子が女子に比べ圧倒的に多い。

次に家族群についてみると、男子は、兄弟姉妹型が父型や母型に比べ多いのが目につく。ついで、中学男子では父型が多い。女子では、中学・大学生ともに母型が

最も多く、兄弟姉妹型の順になる。中間群についてみると、大学男子は、兄弟姉妹・親友型が多く、女子では、中学・大学生とも、母・親友型および父・母・親友型が多い。また、大学女子は、大学男子と同じように、兄弟姉妹・親友型が多い。

2) 各類型の特徴

次に、家族群、親友型、中間群および閉鎖型の対象のもつ意味(愛情および信頼感)および機能(対象別自己開放性等)について検討しよう。

表3 各類型の父母の愛情

各類型	性別	N	男						女					
			中 学			大 学			中 学			大 学		
			父	母	N	父	母	N	父	母	N	父	母	N
家	父 型	1	19	12	1	22	28							
	母 型	3	17.00(1.41)	23.33(0.47)				16	19.75(2.80)	22.06(1.20)	12	20.42(2.56)	22.33(1.70)	
族	兄 弟 型	12	19.58(2.47)	19.00(8.11)	4	20.75(1.09)	21.25(0.43)	10	19.60(2.88)	20.20(2.09)	8	19.88(2.08)	20.50(2.35)	
	父・母 型	9	21.11(1.91)	21.22(2.20)	1	23	23	2	23.00(0.00)	22.50(0.50)	1	23	24	
群	父・兄弟 型										1	23	18	
	母・兄弟 型							3	21.33(1.25)	22.00(1.41)	1	10	22	
	父・母・兄弟 型	2	22.50(1.50)	23.00(1.00)										
中	母・親友 型				1	19	20	9	16.44(8.24)	20.22(3.42)	9	18.56(8.74)	22.11(0.87)	
間	兄 弟・親友 型	2	16.50(8.50)	18.50(2.50)	9	17.56(6.48)	17.33(6.36)	2	21.00(1.00)	19.50(0.50)	18	19.38(2.59)	19.62(2.76)	
群	父・母・親友 型	1	20	24	3	21.00(0.82)	19.33(1.89)	5	20.00(1.90)	20.60(1.20)	5	22.60(0.80)	23.00(0.63)	
	母・兄弟・親友 型	1	19	21				4	19.25(1.30)	20.50(1.66)	5	17.20(1.47)	20.40(1.36)	
	父・母・兄弟・親友 型	1	23	22				1	23	22	2	22.50(0.50)	23.00(0.00)	
	親 友 型	10	17.50(2.50)	20.10(2.48)	52	18.37(2.78)	19.18(2.41)	22	18.82(8.70)	19.55(8.20)	50	18.06(8.62)	19.42(2.84)	
	閉 鎖 型	20	17.10(3.79)	18.10(8.52)	26	16.46(2.86)	17.50(2.62)	5	14.40(4.18)	17.00(8.74)	2	17.50(1.50)	18.00(1.00)	

数値は平均を、()内数値は標準偏差を表わす。また、Nは各類型に属するもの的人数を表わしている。表4および表5も同様である。

表3は、表2に示した各類型の父および母の愛情を、表4は、各類型の各対象に対する問題解決能力の信頼感を、表5は各類型の各対象に対する開放性を、中学・大学別、男女別に示したものである。

表中、ゴシックの数値は、数値の高いことが予想される箇所である。

(1) 家族群

家族群は、5人の対象のうち、家族(父・母・兄弟姉妹)への開放性得点が他の対象に比べ高いのが特徴である(表5参照)。この型には、①父型、②母型、③兄弟姉妹型、④父・母型、⑤父・兄弟姉妹型、⑥母・兄弟姉妹型、⑦父・母・兄弟姉妹型の7つの型がある。

表3にみられるように、父型および父・兄弟姉妹型は

父の、母型および母・兄弟姉妹型は母の、父・母型および父・母・兄弟姉妹型は父および母の愛情の認知の高い傾向がある。また、表4から、父型は父に、母型は母に、兄弟姉妹型は兄弟姉妹に、父・母型は父および母に、父・兄弟姉妹型は父および兄弟姉妹に、母・兄弟姉妹型は母および兄弟姉妹に、父・母・兄弟姉妹型は父、母および兄弟姉妹に対する問題解決の信頼感の高いことがわかる。

このような特徴をもった各類型が、開放性の領域でどのように分化しているかを母型および兄弟姉妹型について検討してみよう。表6および表7は、どの対象の得点が各領域で高いかを母型および兄弟姉妹型について、対象の順位が示してある。表6および表7によれば、母型

原 著

表4 各類型の対象への信頼感

性別 学校別 対象別 各類型	男										女															
	中 学					大 学					中 学					大 学										
	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生						
家	父型	86	19	27	63	85	64	23	89	63	21															
家	母型	88.67 (20.40)	64.33 (16.68)	32.38 (20.14)	37.38 (11.82)	37.38 (26.51)											4.863 (1.354)	6.981 (6.82)	2.706 (1.947)	3.706 (1.199)	2.744 (1.750)	4.850 (1.401)	7.308 (6.34)	86.17 (1.674)	40.25 (1.008)	12.00 (10.14)
	兄弟型	44.08 (11.06)	39.17 (12.17)	66.25 (15.36)	43.50 (10.41)	17.08 (18.19)	41.00 (2.55)	34.00 (11.68)	68.00 (8.28)	51.50 (9.55)	15.50 (9.76)	3.910 (5.89)	50.90 (9.18)	7.230 (7.66)	40.10 (8.52)	7.50 (4.90)	3.338 (10.00)	5.088 (6.37)	7.538 (4.97)	45.88 (10.43)	4.50 (7.62)					
族	父・母型	64.78 (16.67)	61.00 (9.59)	19.78 (8.04)	25.56 (16.89)	38.89 (8.96)	64	55	89	52	0	68.00 (4.00)	67.50 (0.50)	3.550 (2.50)	2.850 (1.150)	10.50 (10.50)	66	59	29	56	0					
	父・兄弟型																63	31	69	45	2					
群	母・兄弟型											3.623 (5.73)	6.300 (1.63)	6.567 (3.86)	4.267 (4.50)	2.38 (3.80)	6	63	65	59	26					
	父・母・兄弟型	71.50 (2.50)	50.50 (4.50)	48.50 (7.50)	2.450 (1.50)	1.500 (2.00)																				
中	母・親友型						42	74	9	47	38	8.822 (1.331)	7.133 (4.57)	2.589 (1.856)	5.989 (8.16)	1.967 (1.365)	4.244 (6.65)	6.444 (6.80)	2.678 (8.71)	6.111 (10.71)	1.522 (9.60)					
	兄弟・親友型	23.00 (9.06)	22.00 (8.00)	5.900 (4.00)	5.800 (6.00)	4.800 (7.00)	3.811 (7.85)	2.867 (11.16)	6.956 (7.18)	6.522 (4.44)	1.344 (10.89)	4.900 (9.00)	8.850 (8.50)	5.8.00 (8.00)	5.6.50 (1.50)	8.00 (8.00)	2.808 (10.25)	3.969 (9.60)	6.438 (5.39)	6.038 (7.39)	1.746 (1.81)					
間	父・母・親友型	4.9	6.7	3.1	6.3	0	4.667 (9.53)	5.387 (5.67)	2.867 (14.70)	6.633 (2.87)	1.467 (10.50)	5.360 (7.31)	6.560 (6.09)	2.620 (8.31)	5.840 (7.61)	5.80 (5.15)	6.260 (5.54)	5.920 (5.91)	2.840 (9.26)	5.360 (2.42)	1.120 (9.50)					
	母・兄弟・親友型	3.8	6.3	6.1	5.2	1						3.87.5 (10.85)	5.950 (5.94)	4.650 (11.88)	4.200 (7.55)	2.82.5 (8.58)	3.140 (1.394)	5.680 (6.14)	5.380 (6.02)	5.380 (7.78)	1.440 (9.98)					
群	父・母・兄弟・親友型	4.9	5.0	4.5	5.8	8						4.3	5.5	4.6	3.8	2.8	4.400 (1.000)	5.800 (10.00)	5.500 (1.00)	4.900 (1.700)	4.00 (4.00)					
	親友型	3.900 (14.18)	6.070 (8.28)	2.390 (16.00)	6.680 (10.04)	2.950 (1.381)	3.655 (1.199)	3.856 (12.39)	3.612 (17.51)	7.187 (6.95)	2.688 (15.74)	3.864 (15.88)	5.82.7 (8.51)	8.491 (15.21)	6.586 (7.63)	1.759 (1.452)	3.532 (14.11)	5.056 (11.22)	3.88.2 (14.86)	7.040 (7.82)	1.484 (14.87)					
閉鎖型		4.750 (1.682)	5.190 (1.002)	4.435 (1.941)	4.480 (1.857)	2.190 (1.688)	4.004 (1.297)	3.954 (1.482)	3.765 (1.883)	6.48.5 (9.74)	2.842 (19.57)	3.240 (18.91)	5.6.60 (2.73)	4.720 (7.6)	3.860 (1.143)	1.740 (1.700)	2.400 (8.50)	4.350 (4.50)	5.550 (1.150)	7.050 (1.850)	1.650 (1.850)					

表5 各類型の対象別自己開放性

性別 学校別 対象別 各類型	男										女															
	中 学					大 学					中 学					大 学										
	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生	父	母	兄 弟	親 友	先 生						
家	父型	29	2	10	21	9	26	18	14	17	6															
家	母型	11.88 (6.65)	30.67 (5.31)	12.00 (10.29)	11.67 (9.46)	9.00 (6.98)						1.569 (6.80)	3.188 (5.62)	10.75 (8.92)	1.600 (5.84)	8.44 (5.81)	18.17 (7.21)	3.567 (4.87)	1.617 (7.56)	2.25.8 (4.42)	6.17 (4.81)					
	兄弟型	13.88 (8.21)	14.75 (8.88)	30.33 (6.76)	1.633 (7.30)	6.67 (7.19)	1.650 (5.85)	1.625 (6.87)	3.125 (6.42)	14.25 (4.26)	5.50 (4.56)	1.630 (6.45)	2.260 (5.62)	3.740 (4.36)	2.200 (8.65)	4.10 (3.27)	14.75 (3.96)	2.06.8 (5.48)	3.63.8 (4.33)	2.61.8 (4.34)	5.25 (4.89)					
族	父・母型	29.89 (6.85)	30.44 (5.54)	12.67 (5.94)	13.33 (6.06)	14.56 (6.09)	30	29	18	8	0	24.00 (1.00)	24.50 (2.50)	7.50 (3.50)	10.50 (0.50)	5.50 (5.50)	3.8	4.0	11	29	0					
	父・兄弟型																2.8	11	2.8	19	1					
群	母・兄弟型											2.3.67 (1.89)	3.800 (2.16)	3.833 (2.82)	20.33 (4.19)	2.83 (1.25)	4	31	30	19	1					
	父・母・兄弟型	2.500 (3.00)	2.500 (1.00)	2.500 (1.00)	1.200 (1.00)	7.00 (6.00)																				
中	母・親友型						10	22	4	20	6	9.78 (6.76)	2.678 (5.20)	7.00 (6.39)	2.622 (5.09)	5.56 (4.50)	1.744 (5.42)	3.000 (4.06)	11.11 (6.08)	3.056 (5.01)	7.78 (5.31)					
	兄弟・親友型	8.00 (8.00)	8.50 (8.50)	2.550 (3.50)	2.500 (3.00)	10.00 (7.00)	11.56 (6.41)	11.88 (7.64)	2.833 (6.82)	2.8.67 (7.20)	6.00 (3.89)	1.800 (3.00)	2.200 (2.00)	3.500 (0.00)	3.450 (1.50)	7.00 (8.00)	1.677 (5.79)	2.192 (5.82)	3.477 (2.99)	3.546 (3.54)	9.88 (5.27)					
間	父・母・親友型	1.5	1.8	5	2.1	0	2.000 (2.16)	2.1.67 (3.86)	6.00 (2.45)	2.2.87 (1.25)	2.67 (2.05)	2.540 (3.72)	2.740 (3.77)	9.20 (2.98)	2.820 (3.82)	3.20 (2.82)	3.300 (3.03)	3.560 (3.81)	1.6.60 (6.50)	2.400 (4.59)						
	母・兄弟・親友型	1.6	3.0	3.5	3.3	1.6						1.67.5 (7.50)	3.125 (5.54)	3.275 (5.93)	3.300 (5.83)	11.50 (7.05)	11.20 (3.01)	2.560 (2.79)	2.680 (3.19)	2.520 (2.78)	6.40 (2.78)					
群	父・母・兄弟・親友型	2.5	2.7	2.2	2.2	3						3.0	3.5	2.9	3.2	2.1	2.700 (6.00)	3.150 (4.50)	3.100 (7.00)	2.950 (10.50)	1.8.50 (4.50)					
	親友型	10.70 (5.75)	14.90 (5.11)	6.40 (6.17)	2.760 (2.80)	9.00 (5.71)	10.40 (6.11)	11.19 (6.27)	8.79 (7.64)	2.812 (5.37)	7.79 (7.09)	10.77 (7.44)	1.686 (8.10)	8.64 (8.64)	3.300 (4.93)	5.77 (5.04)	10.28 (7.83)	1.572 (8.14)	11.80 (8.73)	3.234 (6.10)	4.68 (4.72)					
閉鎖型		4.70 (2.95)	4.95 (3.19)	3.20 (3.28)	3.90 (2.95)	2.70 (3.66)	3.08 (2.51)	4.04 (3.28)	2.62 (2.96)	5.77 (8.46)	2.08 (2.86)	2.60 (2.58)	5.00 (1.26)	2.80 (1.72)	7.00 (2.90)	0.60 (0.80)	4.00 (4.00)	5.00 (0.50)	2.50 (1.00)	9.00 (3.00)	3.00 (3.00)					

青年期の自己開放性に関する一検討

表6 母型における領域別の対象の得点順位

性別 子以別 領域別	男										女									
	中 学					大 学					中 学					大 学				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1*	母	父	兄弟	親友	先生						母	父	兄弟	親友	先生	母	兄弟	父	親友	先生
2	母	父	兄弟	親友	先生						母	親友	兄弟	父	先生	母	親友	兄弟	父	先生
3	母	兄弟	父	親友	先生						母	親友	父	兄弟	先生	母	親友	父	兄弟	先生
4	母	親友	兄弟	父	先生						母	親友	兄弟	父	先生	母	親友	兄弟	父	先生
5	母	親友	兄弟	先生	父						母	親友	兄弟	父	先生	母	親友	父	兄弟	先生
6	母	父	先生	兄弟	親友						母	父	先生	兄弟	親友	母	父	親友	兄弟	先生
7	母	父	親友	先生	兄弟						母	父	親友	兄弟	先生	母	親友	父	兄弟	先生

* 領域1は家庭生活，2は身体・性格，3は勉強・成績，4は友人関係，5は学校生活，6は進学・就職，7は人生・社会観をあらわしている。
以下表7，表8，表9および表10も同様である。

表7 兄弟姉妹型における領域別の対象の得点順位

性別 子以別 領域別	男										女									
	中 学					大 学					中 学					大 学				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1	兄弟	母	父	親友	先生	兄弟	母	父	親友	先生	兄弟	母	父	親友	先生	兄弟	母	父	親友	先生
2	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	母	親友	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	母	親友	父	先生
3	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生
4	兄弟	親友	父	母	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生
5	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	父	母	先生	兄弟	親友	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生
6	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	親友	
7	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	親友	父	母	先生	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	親友	母	父	先生

はどの領域でも母型が第1位を占め，兄弟姉妹型は，大学女子の5の学校生活の領域を除いて，どの領域でも兄弟姉妹が1位を占めている。それぞれの類型の対象は，どの領域でも，開放性に関して中核的な機能を果していることがわかる。

(2) 親友型

これは，5人の対象のうち，親友への開放性得点が他の対象に比べ高いのが特徴である。(表5参照)

親友型は，表3にみられるように，父母の愛情の認知

は閉鎖型より高い傾向はある。しかし，この型は，家族群や中間群の父や母を含むそれぞれの型に比べ，父母の愛情の認知は低い傾向がある。また，この型では，問題解決に対する親友への信頼感は，表4にみられるように，顕著に高い。

表8は，親友型について，どの対象の得点が各領域で高いかの順位を示したものである。表8によれば，親友は中学男子が6の進学・就職の領域で3位であるほかは，どの領域でも第1位を占めている。

表8 親友型における領域別の対象の得点順位

領域別	性別 学校別 対象の順位	男										女									
		中 学					大 学					中 学					大 学				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	兄弟	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生	
2	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	兄弟	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	
3	親友	母	先生	兄弟	父	親友	先生	母	父	兄弟	親友	母	先生	父	兄弟	親友	母	兄弟	父	先生	
4	親友	母	父	先生	兄弟	親友	兄弟	母	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	
5	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	先生	父	兄弟	親友	母	兄弟	父	先生	親友	母	兄弟	父	先生	
6	父	母	親友	先生	兄弟	親友	父	母	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	兄弟	先生	
7	親友	父	先生	母	兄弟	親友	父	母	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	親友	父	母	兄弟	先生	

(3) 中間群

中間群は、5人の対象のうち、家族と親友への開放性得点が高いのが特徴である。(表5参照)この型には、①母・親友型、②兄弟姉妹・親友型、③父・母・親友型、④母・兄弟姉妹・親友型、⑤父・母・兄弟姉妹・親友型の5つの型がある。

表3からわかるように、母・親友型および母・兄弟姉妹・親友型は、母の愛情の認知が高く、父・母・親友型および父・母・兄弟姉妹・親友型は、父および母の愛情

の認知の高い傾向がある。また、表4から、母・親友型は、母および親友に、兄弟姉妹・親友型は、兄弟姉妹および親友に、父・母・親友型は、父、母および親友に、母・兄弟姉妹・親友型は、母、兄弟姉妹および親友に、父・母・兄弟姉妹・親友型は、父、母、兄弟姉妹および親友に対する問題解決の信頼感の高いことがわかる。

このような特徴をもった各類型が、開放性の領域でどのように分化しているかを兄弟姉妹・親友型および父・母・親友型について、表9および表10から検討しよう。

表9 兄弟姉妹・親友型における領域別の対象の得点順位

領域別	性別 学校別 対象の順位	男										女									
		中 学					大 学					中 学					大 学				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生	兄弟	母	親友	父	先生	兄弟	母	親友	父	先生	
2	親友	兄弟	父	母	先生	親友	兄弟	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生	
3	兄弟	親友	父	母	先生	親友	兄弟	父	母	先生	兄弟	親友	父	母	先生	親友	兄弟	母	先生	父	
4	親友	兄弟	先生	父	母	親友	兄弟	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生	
5	親友	兄弟	父	母	先生	親友	兄弟	母	父	先生	兄弟	親友	母	父	先生	親友	兄弟	母	父	先生	
6	兄弟	親友	先生	父	母	兄弟	親友	父	先生	母	母	兄弟	親友	父	先生	兄弟	母	父	親友	先生	
7	兄弟	親友	先生	父	母	親友	兄弟	父	母	先生	親友	兄弟	父	母	先生	兄弟	親友	父	母	先生	

表10 父・母・親友型における領域別の対象の得点順位

領域別	性別 学校別 対象の順位	男										女									
		中 学					大 学					中 学					大 学				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
1	父	母	兄弟	親友	先生	母	父	兄弟	親友	先生	母	父	兄弟	親友	先生	父	母	兄弟	親友	先生	
2	母	親友	父	兄弟	先生	親友	父	母	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	
3	母	父	親友	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	親友	父	母	先生	兄弟	
4	母	親友	父	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	親友	母	父	兄弟	先生	母	親友	父	兄弟	先生	
5	親友	母	父	兄弟	先生	母	親友	父	兄弟	先生	親友	父	母	兄弟	先生	父	母	親友	兄弟	先生	
6	父	母	親友	兄弟	先生	父	母	親友	先生	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	父	母	親友	先生	兄弟	
7	親友	父	母	兄弟	先生	親友	父	母	兄弟	先生	父	母	親友	兄弟	先生	親友	父	母	兄弟	先生	

青年期の自己開放性に関する一検討

兄弟姉妹・親友型は、女子の1の家庭生活および6の進学・就職の領域を除いて、兄弟姉妹、親友がどの領域でも1位および2位を占め、父・母・親友型は、大学生および中学女子の1の家庭生活の領域を除いて、父、母および親友がどの領域でも、1位・2位および3位を占めている。

(4) 閉鎖型

この型は、すべての対象への開放性得点が10または10以下の者である。したがって、表5にみられるように、各対象は、どの領域でも開放性得点の低いのが特徴である。

この閉鎖型に属する者は、表3にみられるように、家族群、中間群および親友型のどの型よりも、父および母の愛情の認知の低いことがわかる。

また、この閉鎖型は、表4にみられるように、各対象に対する問題解決の信頼感は、中学男子では母親が高く、大学男子では親友が圧倒的に高い。一方、中学女子では親友が母より僅かに高く、大学女子では親友が圧倒的に高い。この表4の結果は、討論でさらに検討する。

IV 討 論

対象に関する類型を、単一対象群、複数対象群、無対象群および分類不能型に分けてみると、単一対象群に属する者は、中学男子で約15%、中学女子および大学生では30%前後である。この単一対象群に属する者は、大学男子は中学男子の約2倍となっている。しかし、女子では、大学生が中学生に比べ若干増加している程度である。単一対象群は年令の進むにしたがって増加することが期待されるが、今後、さらに、検討することが必要である。

複数対象群は、準複数対象群を含めても、中学男子約27%、中学女子約43%、大学男子約20%、大学女子約45%である。この複数対象群に属する者は、女子が男子に比べ多いのが目立っている。

一方、無対象群は、準無対象型を含めて考えると、男子では30%前後であり、かなりの数に達することがわかる。

われわれは、自己開放の対象として、父、母、兄弟姉妹、親友および先生の5人に限定したのであるが、現実の生活場面を考えると、青年にとって意味ある対象は、5人以外を対象であることもあり、さらに、複雑な様相を呈するのであろう。

このようにみえてくると、各対象への平均値を算出して各対象への開放性得点を知ることは、それなりに意味はあるが、単純に自己開放の対象として、単一対象群のみを想定することは現実的にみても不合理である。

次に、単一対象群および複数対象群は、対象が何れに

属するかによって、これらを家族群、親友型および中間群に再分類することができる。家族群に属する者は、中学男子約16%、中学女子約19%、大学男子約3%、大学女子約11%であり、親友型に属する者は、中学男子6%、中学女子約14%、大学男子約27%、大学女子約25%である。また、家族および親友を含む中間群に属する者は、女子が男子に比べ約10%多い。これらの結果をみると、家族群に属する者は、中学生から大学生になるにしたがって若干減少し、親友型に属する者は、中学生から大学生になるにしたがって増加する傾向がある。このデータは、家族群および親友型について明瞭な年令的変容を示していないので、従来指摘されている青年心理学的知見を十分支持する結果とはいえない。しかし、従来から指摘されている方向は示しているといえよう。

さて、対象の類型は、家族群で父型、母型、兄弟姉妹型、父・母型、父・兄弟姉妹型、母・兄弟姉妹型および父・母・兄弟姉妹型の7型、中間群で母・親友型、兄弟姉妹・親友型、父・母・親友型、母・兄弟姉妹・親友型および父・母・兄弟姉妹・親友型の5型、さらに親友型および閉鎖型がある。

これらの14類型は、それぞれ対象に対する意味づけや対象の機能が異なっている。

各類型の父母の愛情の認知は、家族群、中間群、親友型および閉鎖型で異なっている。兄弟姉妹型を除く家族群に属する各類型は、父、母の愛情の認知が最も高く、次いで兄弟姉妹・親友型を除く中間群に属する各類型の順となる(表3参照)。以下、親友型、閉鎖型の順に、父母の愛情の認知は低下する。この結果は、各類型は父母の愛情の認知と関連のあることを示している。

家族群、中間群に属する各類型および親友型は、類型のそれぞれの対象に対する問題解決の信頼感も高いのである。たとえば親友型は、問題解決能力についての親友への信頼感が高い。なお、閉鎖型の各対象への信頼感は、各対象への順位づけを強制した結果が示されたものと理解することができ、おそらく、各対象への信頼感も低いことが期待される。

各類型の領域別開放性をみると、各類型の対象は、殆どあらゆる領域で開放される第1位の対象である。類型の対象が2名の時は、殆どあらゆる領域で第1位および第2位の対象となっている。

以上の結果から、われわれは、各類型の対象の意味づけや機能について理解することができる。

自己開放性に関する対象の類型化から、各類型の対象は、その意味づけや機能について明瞭な特徴が示されたので、これらの結果は、さらに多数の被調査者に適用して検討することが必要である。個々人の青年に適用でき

る結果は、多数の被調査者をもとに照合し、検討を続けることが望ましい。

もちろん、対象を類型に分ける際、基準の設定をどのようにするかという基本的な問題がある。われわれのデータにおいて、分類不能者が若干名いたのであるが、被調査者は、見い出された各類型の何れかに分類されることが望ましい。この意味で、われわれの類型は、さらに検討し、洗練する必要がある。問題は、この際、分類する基準設定がどの程度心理学的に意味があるか、さらに各類型が心理学的にどのような意味をもっているかという点である。

われわれは自己開放性に関する従来の研究が、平均、相関や分散分析の手法によって処理されてきた現実をふまえて、自己を開放する対象の類型化を試みた。いわば、個別化への観点を重視した。得られたデータは、個人内関連を重視し、変数間の内的相互関連が明らかになる方向で処理された。自己開放性に関する研究は、こうした側面からの分析も必要である。

自己開放性に関する研究は、上述の観点からいえば、おそらく自己を層化することがまず必要であろう。自己を開放する領域は、自己にとって中核的問題なのか、周辺的問題なのか。われわれは、領域に関する自己の層化を検討し、個別化の方向から検討することも必要である。自己開放性に関する研究は、この側面の検討を加えることにより、さらに新しい知見が得られるであろう。この意味で、Rickers-Ovsiankina, M. A. たち(1956, 1958)の展開が望まれる。

V 要約

われわれは、自己を開放する対象を類型化することにより、自己開放性についての従来の結果に、新しい知見を若干つけ加えることができた。その結果は、討論で明らかにした。ここでの試みは、自己開放性に関して平均的青年を問題とするのではなく、青年の個々人に迫ることのできる手法を探索することであった。この意味では、その狙いは十分果たすことができなかったが、ともかく、平均的青年と青年個々人の問題について、検討を加えたのである。この方向から、青年一般に論及できる新しい方法の確立が望まれる。

青年心理研究の目的が、青年を理解することから一歩進んで青年の行動を予測することにあるならば、多くの実態調査的研究がそうであるような平均、相関や分散分析を求める手法のみでなく、青年を個人として分析する個別化への方向のとられる必要がある。この方法は、いわゆる事例調査的研究に通ずるものである。事例調査的研究では、個々人の多数の側面を全体関連的にインテ

ンシブに把握することが必要であり、個人内関連を構造化することが必要である。

青年個人にあてはまる法則は、実態調査的研究で得られた結論とも、事例調査的研究で得られた結論とも適合していることが必要である。この検討が十分なされることが必要である。このための1つの方法は、実態調査的研究で得られた結論を事例調査的に検討し、さらに、新しい数量的なデータによって検証することである。

今1つの方法は、実態調査的研究においても、従来の統計的処理方法のみでなく、個別化への検討をあわせて行なうことにより、得られた結論を慎重に述べることである。われわれは、この方法によって検討を加えたのである。従来の自己開放性の検討が平均的処理方法であるのに対し、われわれは、個別化の観点からのデータ処理の必要なことを指摘したのである。

文

献

Dimond, R. E. & Munz, D. C. 1967 Ordinal position of birth and self-disclosure in high school students. *Psychological Reports*, 21, 829-833.

Dimond, R. E. & Hellkamp, D. T. 1969 Race, sex, ordinal position of birth and self-disclosure in high school students. *Psychological Reports*, 25, 235-238.

Jourard, S. M. 1961 Self-disclosure scores and grades in nursing college. *Journal of Applied Psychology*, 45, 244-247.

Jourard, S. M. & Lasakow, P. 1958 Some factors in self-disclosure. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 56, 91-98.

藤山英順・久世敏雄・續有恒ほか 1972 中学生の自己開放性について 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 19, 43-50.

- 加藤隆勝 1965 中学生における自己の閉鎖性と開放性
 岐阜大学学芸部研究紀要(人文科学), 14, 54-61.
- 久世敏雄・蔭山英順・續有恒ほか 1972 両親の愛情の
 認知と困った場面における自己開放性についての一
 研究 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科),
 19, 51-63.
- 久世敏雄・蔭山英順ほか 1973 困った場面における両
 親への信頼感と自己開放性についての一研究 名古
 屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 20, 39-49.
- 久世敏雄・蔭山英順 1973 困った場面における自己開
 放性についての一研究 青年心理学研究会代表依田
 新「わが国における青年心理学の発展」金子書房
- Melikian L. H. 1962 Self - disclosure
 among university students in the Mid-
 dle East. *Journal of Social Psychology*,
 57, 257-263.
- Plog, S. C. 1965 The disclosure of self in
 the United States and Germany. *Jour-
 nal of Social Psychology*. 65, 193-203.
- Rickers-Ovsiankina, M. A. 1956 Social ac-
 cessibility in three age groups.
Psychological Reports, 2, 283-294.
- Rickers-Ovsiankina, M. A. & Kusmin, A.A.
 1958 Individual differences in social
 accessibility. *Psychological Reports*, 4,
 391-406.
- Rivenbark, W. H. 1971 Self-disclosure
 patterns among adolescents. *Psycholo-
 gical Reports*. 28, 35-42.
- West, L. W. & Zingle, H. W. 1969
 A self-disclosure inventory for ado-
 lescents. *Psychological Reports*. 24,
 439-445.
- 依田新 1963 青年心理学 培風館

A STUDY OF SELF-DISCLOSURE IN DIFFICULT SITUATIONS AMONG ADOLESCENTS

Toshio KUZE

This study aimed at describing types of self-disclosure to target persons in adolescents. The questionnaire used was consisted of three parts. In the first part, there were twenty-one items representing seven difficult situations. The subjects were requested to check one of three degrees (0, 1 or 2) of self-disclosure to father, mother, sibling, friends, and teachers for each item. In the second part, there were eight items representing the parental attitude of child-rearing and perceived parental affection which were adapted from A. B. Heilbrun's (1964). The subjects were requested to check one of three degrees (0, 1 or 2) of perceived parental affection for each item. In the third part, there were twenty-one items representing seven difficult situations mentioned above. The subjects were requested to check one of five degrees (0, 1, 2, 3, or 4) of reliance on father, mother, sibling, friends, and teachers for each item.

The subjects were 169 high school boys and 161 girls, and 194 college males and 201 females in Nagoya City. The investigation was conducted in September of 1971 for college, and in February and March of 1972 for high school.

Concerning self-disclosure to target persons in adolescents, when the difference between self-disclosure score for the highest target person and that for the second high-

est was more than 8, the highest one was designated as the focus and this pattern called a one-focus type. When the difference score between the two top target persons was less than 3 and the difference between the second highest and the third highest was 8 or more, the second highest was also categorized as a focus (two focus type). Three, and four-focus types were determined in the same way. They were grouped as multi-focus types.

When the scores for all the 5 target persons were less than 10, the focus was called no focus type.

Ss were classified into 240 single focusers, 289 multi-focusers, 141 no focusers and 52 undifferentiated focusers.

One-focus type contained Father type, Mother type, Sibling type, and Friend type. Multi-focus type contained two-focus type: Father-Mother type, Father-Sibling type, Mother-Sibling type, Mother-Friend type, Sibling-Friend type; three-focus type: Father-Mother-Sibling type, Father-Mother-Friend type, Mother-Sibling-Friend type; and four focus type : Father-Mother-Sibling-Friend type.

Then, types of self-disclosure to target persons contained 14 types including no focus type.

These 14 types were different concerning the meanings and functions to target persons.